矢作川流域圏懇談会、担い手事例集座談会

発展、広がっていくためのプロセスを考える

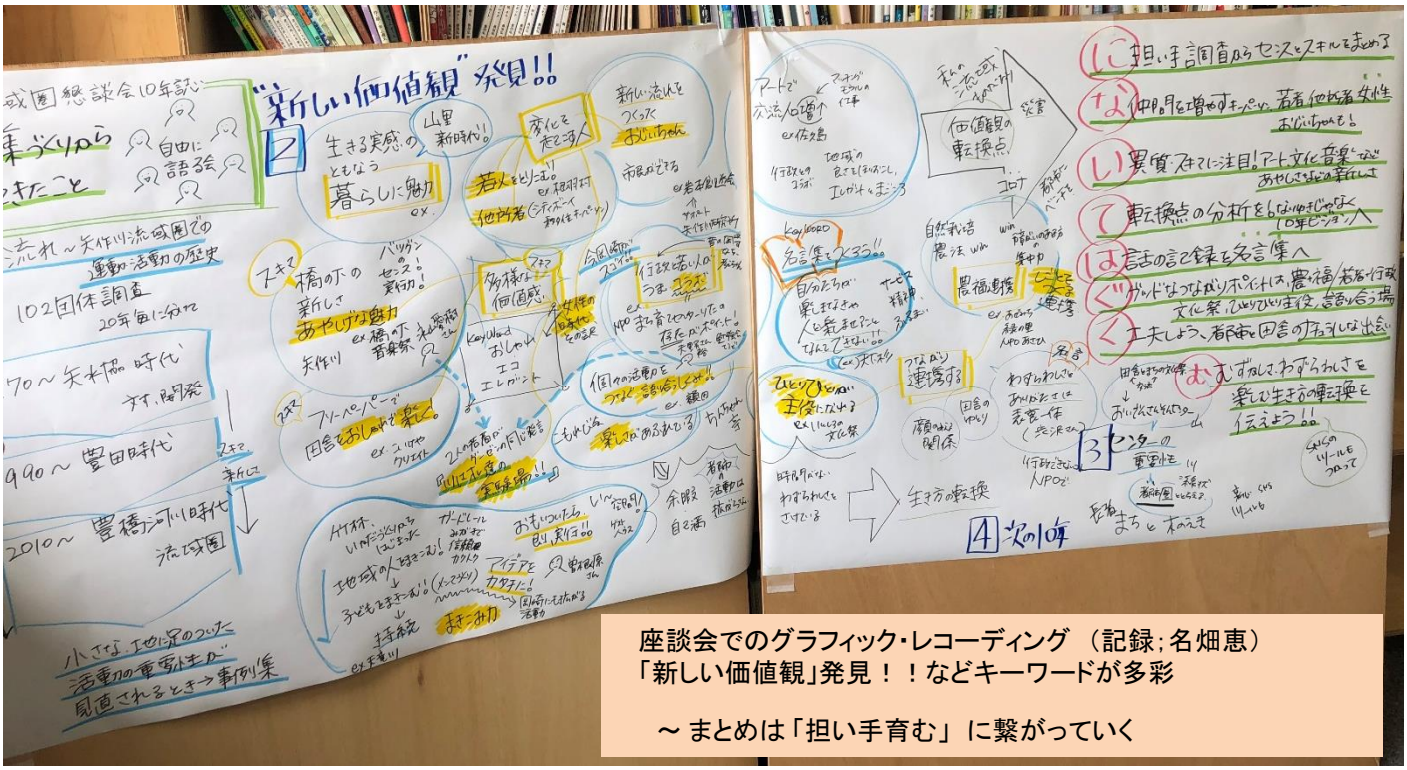
流域圏調査、奈佐の浜プロジェクト、矢作川流域圏懇談会での経験をふまえ、どのようなプロセスを経てここまで来たのか、これから必要なことは何かを考えてみた。

未来へ繋げていくためのプロセス

	例えば
■ 理念・組織の共有	（矢作川流域圏懇談会）
→ ■ 場の共有	（川部会ワーキングとか）
→ ■ 課題・目的の共有	
→ ■ ミッションの共有	（担い手づくり事例集調査、エクスカーション）
→ ■ 成功（失敗）体験の共有	（発見、気づき、展望）
→ ■ 未来の共有	（次のステップ、新たな展開への希望）

考えてみれば当たり前のことであるが、これを繰り返し（どこに戻るのかはケースバイケース）、今までは新たな繋がりを作ってきたような気がする。懇談会の次のステップ、2020年以降のテーマ、ミッションなどを考えてみたい。このために2020年7月22日、「矢作川流域圏の50年と未来を語る座談会」を開催した。

（P33～P40 は、その時の資料である）



座談会でのグラフィック・レコーディング （記録；名畑恵）
「新しい価値観」発見！！などキーワードが多彩

～ まとめは「担い手育む」 に繋がっていく

【懇談会参加者】

洲崎燈子（司会）
浜口美穂、沖章枝（山部会）、
高橋伸夫（海部会）、
近藤朗（川部会）

中田慎（事務局補佐）
名畑恵（記録・グラレコ）